

絆を育む学校づくり

ー地域と積極的に関わり、ふるさとを愛する子どもを育てるー

新城市立鳳来中部小学校

1 実践のねらい

新城の自然、歴史、文化・人と関わる豊かな活動を、地域の人たちと共に考え実現させていくことを通して、地域の人との絆を深め、ふるさとを大切にしようとする心を育成する。

2 実践の内容

(1) 共育（ともいく）委員会での話し合い

地域のいろいろな世代の方で組織される異世代交流会議（共育委員会）を行い、地域の歴史や伝統文化を発展させていくためのアイデアを子どもたちと話し合った。6月の第1回委員会では、各学年の代表が、活動内容・目的などの計画を提案し、共育委員が質問・助言をして、各学年の活動内容の検討を行った。今後の活動の見通しが明確になり、活動への意欲を高めることができた。



第1回共育（ともいく）委員会

12月には、活動の中間報告会を行った。各学年の代表が、プレゼンソフトを使用したり、実際に行った表現活動を再現したりした後、共育委員から質問や意見をいただいた。委員からは、各学年の活動が子どもたち自身の成長につながったことや、地域に出かけて活動すること自体が地域貢献となっており、地域としてはとても感謝しているなどの意見を多くいただいた。子どもたちは活動した満足感を得るとともに、活動が地域の貢献につながっていることを確認できたことで、さらなる成就感も得ることができた。また、今後の活動への意欲の向上につながった。

(2) 地域と交流する活動

ア こども園と交流しよう（1年生）

1年生は、地域のこども園との交流活動を行った。6月に最初の訪問をした。園児たちを楽しんでもらおうというめあてをもち、学級会で歌やゲームを考え、練習を重ねて訪問した。園児の前で堂々と披露したり、園児をリードして楽しくゲームをしたりした。子どもたちの多くが、振り返りの作文で「(園児が) よろこんでくれて、うれしかった。」と記し、自分たちの活動が役に立ったという自己有用感をもつことができた。2学期には、園児たちにリクエストをしてもらい、それに応じる活動をしようと様々な準備をして訪問した。園児たちに思いが伝わったことの喜びを多くの子どもたちが味わうことができた。

イ 地域の人々に教えてもらい、自分たちも名人になろう（2年生）

1学期にはグループに分かれて、地域の公共施設や店舗、地域の達人（子どもたちには「名人」と提示）が営む農園に出かけ、施設の地域貢献や、達人のすごさを学んだ。子どもたちは、働く人の話を真剣に聞くことで、地域で働く人の真剣さや思いにふれ、地域貢献の大切さに気づくことができた。農園では、収穫体験や収穫した作物を味わう体験をした。子どもたちは、野菜作りの達人のすごさを実感し、名人に学ぶ活動への意欲を高めることができた。2学期には、地域の達人たちに直接学ぶ活動をし、名人に弟子入りして修行をするという形で、地域の文化を継承するようにした。サバイバル体験・キノコ探求・料理作り・体力作りなど、個別のテーマを掲げて「修行」と称する体験活動を行った。活動についての報告会を度々行い、名人のすごさや各自が習得した学びを伝え合う学習を通して、表現力を向上することができた。

ウ ふるさとをもっとよく知ろう（3年生）

共育委員会でアドバイスしていただいた、校区を一望する浅間山（せんげんやま）を活用す

る活動を行った。地域の方を講師にして浅間山の歴史を学んだり、地域の方たちが作ったアスレチックで体力づくりをしたりした。浅間山から見た校区の中で、気になる場所の見学・探索活動を行った。長篠城址や農業協同組合が経営する地域の食農施設などに勤務されている方を講師に迎えて、地域の歴史やよさを改めて知ることができた。これらの活動を踏まえて、長篠の戦いの勇士、鳥居強右衛門の行動をもとにして、体力向上をめざした体づくり運動を考案し、実践し、運動する楽しさを体感した。

エ お年寄りと交流しよう（４年生）

４年生は地域のデイサービス訪問を計画し、お年寄りとの交流を継続的に行った。紙芝居での慰問活動を活動の柱とした。自分たちを中部紙芝居キッズと名付け、紙芝居を練習してデイサービス会場への訪問をした。また、お年寄りとの遊び等の交流活動も行った。この交流活動で、お年寄りと交流する時の課題に気づいた子どもたちは、高齢者疑似体験グッズでお年寄りの大変さを実感し、相手を意識した交流活動の大切さを学んだ。交流を重ねる中で、お年寄りに喜んでもらえ、自分たちの活動が役立ったことが自覚でき、どの子も自己有用感を味わうことができた。そして、もっと楽しんでもらいたい、もっと仲よくなりたいというさらなる意欲が喚起され、他の施設への交流活動を希望することになった。また、この紙芝居活動を、学芸発表会で活動の内容と共に地域の人に披露し、自分たちの思いを地域の人々に知ってもらうことができた。

(3) 地域の歴史を知り、未来に継承する活動

ア 地域の偉人を学ぼう（５年生）

５年生は、本校にゆかりのある「耳で納得し、眼で確かめ、足で書いた」と称される日本を代表する民俗学者「早川孝太郎」に視点をあて、耳で納得し、眼で確かめ、体全体を使って表現する活動を行い、郷土への想いを深めた。早川孝太郎についての講師への聞き取りでは、早川の人となりを知り、追究意欲を高めた。早川の大著「花祭」に関する講師への聞き取りをきっかけに、和楽の演奏や創作体験へと追究意欲を継続し、活動内容を深めることができた。早川のこの地域を取り上げた作品「三州横山話」の読みから、地域の歴史家にサポートをいただき、地域探索を行った。そして、これらの集大成として学芸発表会で、体全体を使った表現活動「KOTARO'S WORLD」を創作し、地域の人に披露した。「地域の人に今まであまり知られていなかった孝太郎について関心をもっていた」との感想をもった子どもたちは、自分たちの活動が伝えられた成就感を味わい、地域への想いを深めることができた。

イ ふるさと歴史ガイドをしよう（６年生）

６年生は、地域の人々によって大切に残されてきた、日本の歴史上に燦然と輝く「長篠の戦い」に関する史跡や文化を地域の人に教えていただいたり、調べたりして、地域を訪れる人々に伝える歴史ガイドの活動を行った。この活動は、３年前の６年生が始め、以来引き継いできたものである。今年度は、ガイド内容やガイドする地域を増やすなど、パワーアップしたガイドを試みた。５月の「長篠合戦のぼりまつり」や２学期末の一般の人たちに向けてのガイドや近隣の小学生を対象にしたガイドを行い、子どもたちはふるさとへの想いを深め、ふるさとの価値を伝える喜びを享受できた。また、共育委員会でふるさとの歴史を伝えることが地域への貢献となることを教えていただき、自分たちの活動の価値を自覚することができた。

3 実践の成果と課題

地域の人と交流活動を行ったことで、地域のよさを実感できたり、地域貢献していることを自覚したりし、自己有用感をもつことができた。こうしたことから、子どもの意欲が高まり、追究活動も深まりを確認できた。また、地域を探究し、地域のよさを認識し、広める活動を通して、ふるさとへの想いを深め、地域への愛着を強めることができ、将来誇りをもって郷土を語れる真のグローバルな大人になる礎を培うことができたことを感じる。これらの活動が次年度もバージョンアップして引き継がれていくことで、子どもの意欲はさらに高まるものと思う。